

第5学年2組 国語科学習指導案

令和4年10月6日(木) 第5校時

1 単元名・教材名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして意見文を書こう

「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領〈知識及び技能〉の(2)「イ 情報と情報との関連付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」と、〈思考力、判断力、表現力等〉の「B 書くこと」

(1)「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」と「C 読むこと」(1)「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・資料と文章との対応を読み取り、それらの資料の効果を捉える力
- ・自分の意見の説得力を高めるための資料を選び、意見が伝わるように書き表し方を工夫する力
- ・目的に応じて、文章と資料を結び付けて情報を見つけたり、論の進め方を考えたりする力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第一次では、まず、扉のページのニホンノウサギとアマミノクロウサギのイラストを活用することで、資料の効果に着目する学習だと見通しをもたせ、本単元のめあてが「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして自分の考えを書く」ことであると捉えさせる。次に、本教材「固有種が教えてくれること」を読んで初発の感想を書く。その際には、内容について感じたことや考えたことだけでなく、疑問に思ったことや考えてみたことを観点とし、それぞれ分けて書かせる。そして、初発の感想の中から資料がないことによって本文の内容が理解しづらいことに気づかせ、学習計画を立てる。そうすることで本単元が資料の効果を考えながら、図表などを用いた文章を読んだり書いたりする学習であると見通しをもたせる。また、本教材の第三次で、目的に応じた資料を選んで自分の考えをまとめる活動に向け、第一次で伝える相手をクラスのみなどと決める。その発表会でクラス代表を選考し、代表者による学年発表会を行う。最終的には、自らの意見文を校長先生に伝えるという相手意識・目的意識をもって自分の考えを書くことができるようにしておく

第二次では、まず、本教材『固有種が教えてくれること』の段落同士の関係や役割を考え文章構成をとらえ、段落構成図にまとめる。こうした活動は「見立てる／言葉の意味が分かること」の学習で既習の内容であり、これから学習する本文と資料の関連付けや、要旨をまとめる際に重要になると考える。その際には、本文のみのワークシートを用意し、段落相互の関係や叙述をもとに読み取りを行うようにする。次に、資料の種類や効果について考えさせる。今回、提示する資料は地図や表、写真、グラフと種類が豊富である。また、取り扱われている内容は、動物の多様さや進化の歴史、環境問題、生物多様性の保護など多岐にわたり、それらに対応する資料から読み取れることも様々であるため、本教材では、児童が資料を読み取り考察する時間を十分に確保する必要があると考えている。その際には、一人学びで読み取って考察したことをグループで出し合って話し合うことで、自分とは違う角度からの考えを知ったり、自分の考えを客観的に考えたりできるようにしたい。次の「文章と資料を関連付けて読む活動」では、叙述から根拠を見つけながら資料がどの文に対応しているのか考えさせる。そこでは、一人一人が本文のみのワークシートに配布された7つの資料を貼り付けながらまとめさせる。

第三次では、これまでの学習を生かし、伝える相手意識をもって必要な情報を選ばせる。そして、児童には「よりよい立野小学校にするために」という課題に対する自分の考えを選んだ資料を生かしてまとめさせる。まとめる際には、①自分の意見を決める、②意見に合った資料を選ぶ・作成する、③構成メモにまとめる、④作文用紙に下書きを書く、⑤下書きを班で読み合い推敲する、⑥作文用紙に清書する、という手順で学習を進めることで、意見と資料が合致しているのか、資料と叙述が対応していて意見を主張する際に生かされているのか観点を与えて話し合い、互いによいまとめ方を共有させたい。そして、清書したものをクラスで発表し、クラスの代表を決め、校長先生の前でよりよい立野小学校にする意見文を発表する。これらの活動を通して、立野小学校をよりよくしていくことをゴールとする。

3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動をとおして指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①

単元をとおして付けたい資質・能力を明確にし、その力を付けるための言語活動を設定する。言語活動（学習のゴール）に向けて、主体的に学ぶことで、生きて働く力が育つであろう。

〈 手だて 〉 資料なしの本文を使って導入を行うことで資料の効果・有用性に気づかせる工夫

資料と本文を関連付けながら読む力や、自分の考えに対して効果的な資料を選び、活用する力を身に付けさせるために、本単元の学習のゴールを『「よりよい立野小学校にするために」の意見文を書き、クラスで発表しよう』に設定した。本単元は「読むこと」で学び、習得した力を「書くこと」で活用する複合的な単元ととらえる。「読むこと」の「固有種が教えてくれること」で資料を生かして自分の主張を書く工夫や、資料の効果について学んでいく。「固有種が教えてくれること」でどれだけ深く学習し、力を付けているかで、その後の「書くこと」での意見文の作成に自信をもって取り組めるかが決まってくると考えている。そこで、資料の有用性に気づかせるために、あえて児童には本文のみのワークシートを使って授業に取り組ませる。資料がないことで本文だけでは内容が分かりづらいことや疑問に思うことが子どもたちには出てくる

だろう。その後、各資料を観察しながらその役割や効果について個人、グループ、一斉で考えさせる。そして、本文と資料を関連付けて読むことで、筆者の主張への理解度や、読み手への説得力がぐっと高まることを実感させたい。そして、今後自分がプレゼンテーションや意見文を書くときに、今回学んだことを自分の力として生かせるようにすれば、書くこと・話すことにおいても主体的に取り組むことができ、子どもたちの生きて働く力が育てられるだろうと考える。

仮説②

単元を通して、言語活動を工夫し、相手意識・目的意識をもたせる。活動の中で協働的に学び合う場を設定し、互いの想いや考えを主体的に伝え合い、考えを広げ深めることにより、生きて働く力が育つであろう。

〈手だて〉 友達との対話を通して、自分の考えを広げ深める活動

単元を通して相手意識・目的意識をもたせ、クラスのみならず学年の児童、校長先生に意見文を伝えるという前提のもと、どの資料を選び、どのように文章に対応させると効果的であるのかを考えさせる。そうして、自分の意見に対する理解度と説得力を高めさせる資料を選ぶという明確な意図をもたせたい。また、推敲を個人で行った後、グループでも行い、多角的な視点で考えることにより、自分の意見文を客観的に捉えられるようにしたい。グループ学習での推敲においては、友だちの意見文のよい点についても評価できるようにして、清書でアドバイスなどの情報を取捨選択するときに役立てるとともに、肯定的な人間関係の構築と、主体的・建設的な学びの場となるようにしたい。こうした学びを経て、相手に共感してもらえるように自分の意見文を友だちの助言を取り入れながら主体的に練り上げ、互いに発表し合うことで考えを広げ、生きて働く力が育つであろうと考える。

4 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉 (2) イ
- (2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 B (1) エ
- (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 C (1) ウ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して想いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

主張を支える資料を選び、それを活用して説得力のある意見文を書く。

(関連：言語活動例Bア)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

7 指導計画(12時間)と評価規準

次	時	学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○扉ページのウサギの絵を見てこれからの学習の見通しをもつ。 ○単元のゴールを知る。 ○「固有種が教えてくれること」を読み、おおまかな内容を確認する。 ○初発の感想を書く。 ・一人学び ・全体交流 ○学習計画を立てる。	○学習課題 ○学習の進め方 感想の書き方 ・文章を読んで思ったこと、考えたこと ・疑問に思ったこと ・分からなかったこと ・考えてみたいこと	○2種類のウサギの絵を見て違いを考察することで、本単元が資料と文章のつながりについて考える学習だと捉えさせる。 ○学習のゴールがクラスで意見文を発表することであると伝える。 ○通読の際には、本文のみのワークシートを用意し、本文に注目させる。 ○初発の感想をいつでも共有できるように、クラスに掲示する。 ○文だけでは内容が分かりづらいことにふれているものを取り上げ、学習計画を立てるようにする。
2	2	○「初め・中・終わり」の三つに本文を分ける。 ○初め・終わりに書かれている筆者の主張を理解する。 ○中を叙述に基づき、二つに分ける。 ○ワークシートを使って、本文と資料を対応させる。 ・一人学び ・全体交流	○「初め・中・終わり」の役割の確認 ○文章と資料の対応	○「初め・中・終わり」の役割を確認することで、筆者の主張がどこで述べられているのか捉えられるようにする。 ○資料が本文のどこに対応しているのか、ワークシートに書き込みながら考えさせる。 ○資料と本文が関連付けられたら、ワークシートに資料を貼りつけさせる。 【思考・判断・表現①】 発表、観察 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。

	3	<p>○資料の特徴をおさえる。</p> <p>○「固有種が教えてくれること」の一つ目の資料からわかることと、その効果についてグループで考え全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学び ・グループ交流 ・全体交流 	<p>○資料の種類（図表、写真、グラフ）</p> <p>○資料から読み取れること</p> <p>○資料の効果</p>	<p>○提示する資料は地図や表、写真、グラフと種類が豊富で、取り扱われている内容も多岐にわたり、対応する資料から読み取れることも様々であることを確認する。</p> <p>○本文と照らし合わせ、資料が何を表しているのか考えるための手がかりにさせる。</p>
	4 (本時)	<p>○「固有種が教えてくれること」の二つ目以降の資料からわかることと、その効果についてグループで考え全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学び ・グループ交流 ・全体交流 <p>○本時のまとめとして、最も効果的な資料と本文の組み合わせは何か選びノートに書く。</p>	<p>○資料の効果</p> <p>○筆者の主張</p>	<p>○前時の学習活動を生かし、本時では資料からわかることを考え、なぜ筆者がその資料を使ったのかという意図について話し合う。</p> <p>○本時のまとめとして、すべての資料の中から、本文での使われ方が最も効果的なものは何か選び、理由を明らかにしてまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>発表、観察</u> 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。</p> </div>
	5	<p>○要旨をまとめる</p> <p>○筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>○要旨のまとめ方</p> <p>○筆者の主張に対して自分の考えをもつこと</p>	<p>○要旨を150字程度でまとめさせる。</p> <p>○筆者の主張について、自分はどうかを150字程度まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>発表、記述</u> 粘り強く、文章と図表などを結び付けて読んで、説明の工夫や筆者の考えを理解し、自分の考えをもとうとしている。</p> </div>
3	6	<p>○第3次の活動を知る。</p> <p>○自分の立場を決める。</p> <p>○使う資料を作成する。 (Google Forms を利用した質問の作成)</p>	<p>○意見文で主張する自分の考え</p> <p>○適した資料の作成</p>	<p>○意見文を書く流れを全体で確認する。</p> <p>○「よりよい立野小にするために」に対する自分の立場を明確にさせてから、それに合う資料を作成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>発表、記述</u> 学習課題を捉え、自分の意見をもとうとしている。</p> </div>

7	<p>○アンケートに回答する</p> <p>○構成メモをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学び ・グループで交流 	<p>○主張の書き方</p> <p>○意図的な事例の使い方</p>	<p>○「初め・中・終わり」の構成でまとめられるように構成メモにまとめる。</p> <p>○資料を中のどこで提示するのが適しているのかを考えさせる。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>記述、観察</u> 図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように構成メモをまとめている。</p>
8	<p>○作文用紙に下書きを行う。</p> <p>○下書きをペアで読み合い推敲する。</p>	<p>○資料と文章の対応のさせ方</p> <p>○文章構成</p> <p>○推敲のしかた</p>	<p>○相手意識を持たせて、どうしたら自分の意見が相手に伝わるのか考えさせる。</p> <p>○写真と文章を対応させるときの文章表現を「固有種が教えてくれること」の本文を参考にし、全体で確認する。</p> <p>○観点に沿って、自分や相手の下書きを推敲する。</p> <p>○誤字脱字は作文用紙に朱書きさせ、アドバイスは付せんに書かせて貼らせるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>記述、観察</u> 図表やグラフとの対応を考えながら自分の考えが相手に伝わるように下書きを書いている。</p>
9	<p>○清書をする。</p>	<p>○情報の取捨選択</p>	<p>○前時に推敲した下書きをもとに、清書をする。その際に、友だちからのアドバイスなどを踏まえ、取捨選択するようにさせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>記述、観察</u> 読み取った説明の工夫や友だちからのアドバイスをいかして、統計資料や写真を用いた意見文を書いている。</p>
10	<p>○クラスで意見文を発表し、感想を書く。</p>	<p>○まとめ</p> <p>○意見文の発表</p>	<p>○観点に沿って友だちの意見文を聞いて評価を行い、感想を書く。</p> <p>○単元の振り返りを行う。</p>
11	<p>○意見文のクラスの代表を、根拠を明らかにして推薦する。</p>		<p>【思考・判断・表現②】 <u>発言、記述</u> 図表の使い方などの観点で、互いの文章のよいところを伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>発言、記述</u> 単元全体の学習を振り返ろうとしている。</p>
12	<p>○クラス代表の9名の発表を体育館で聞く。</p> <p>→その意見文を校長先生に伝え、意見文の内容を実践していく。</p>		

8 本時の展開(4/12時間)

(1) 目標

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)

評価規準

読むことについて、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしようとしている。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の活動が前時の活動の続きであることを確認する。	○前時の想起 ・資料の種類と特徴	○掲示物を活用して、前時の学習を想起することで、前時の学習を生かして本時の学習を行うことを全体で確認できるようにする。	2
2 本時のめあてを確認する。			1
筆者が使う資料には、本文に対してどのような効果があるのだろうか。			
3 資料2～7から読み取れることとその効果について六つの班ごとに分担して考える。	○資料と本文の対応 ○資料の効果 ○筆者の意図	○jamboardを使って班で話し合い考えを以下の2点でまとめさせる。 その資料にはどのような効果があるのか。 ○文末を「～な効果」とすることで文章をまとめやすくする。 ○筆者がその資料を使って何を伝えたいのか考え、その資料がもつ効果について考えさせる。 ○分担することで、その資料について班で責任をもって全体に伝えられるようにさせる。 ○発表の際に全体で共有できるように、資料にはどのような効果があるのかについてまとめ、班で短冊に書かせる。	15
<p>〈予想される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①森林の減少とカモシカの増加がわかる。 ・②折れ線グラフや棒グラフなので変化が分かりやすい。 ・③固有種と環境の関係はバランスが大切だということ。 			
4 班ごとに話し合ったことを発表し、ワークシートにまとめる。	○資料と本文の対応 ○資料の効果 ○筆者の意図	○資料のもつ効果について発表させる。 ○手元のjamboardや、大型モニターに映し出されたものを見ながら発表を聞き、ほかの班の意見をワークシートにまとめさせる。	13
<p>資料の効果(例)</p> <p>資料1 日本とイギリスの大きさ、位置が地図から分かる効果 表から固有種が日本には多くいるが、イギリスにいないことが一目で分かる効果。</p> <p>資料2 年表と地図を対応させて日本が大陸から切り離されることで固有種が残り続けたことが見て分かる効果。 時間の経過によって地形が分かれていくことが分かる効果。</p> <p>資料3 日本が南北に土地が広がり、様々な気温の場所があることで、多くの生き物が生きられることが分かる効果。 色がついていることによって日本が暖かい気温や寒い気温と様々な地形であると分かる効果</p> <p>資料4 日本の国土が南北に広がり、標高の違いがあることで多様な生き物が生きることができると分かる効果。 色がついていることによって全国で高い土地と低い土地の様々な地形であると分かる効果</p> <p>資料5 絶滅した動物の姿を読み手に一目で分かってもらう効果。剥製の資料を用意することでその固有種が実在したことを表す効果。</p> <p>資料6 天然林がどんどん減少していることが一目でわかる効果。</p> <p>資料7 ニホンカモシカの捕獲数が急激に増えていることが一目で分かる効果。</p>			
5 筆者が本文に対して使う資料の効果をまとめさせる。	○効果的な資料の活用のしかた ○本時のまとめ	○筆者が今回の文章で七つの資料を使った理由を文章中の表現との関連性をふまえてまとめさせる。 ○意図的指名で異なる資料について発表させることで、どの資料がどんな理由で効果的だったのか考えを広げさせる。	9 3

<p>〈予想される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が使う資料には、文章だけでは分からない部分をより分かりやすくし、本文を手助けする効果がある。 ・資料を使うことによって、伝わりにくい数字や生き物の様子が一目で分かる効果がある。 ・資料を使うことによって、文章だけでは分からない内容でも関連性を持たせながら読ませる効果がある。 		<p>〈評価規準〉</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>話し合いの観察・発表・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を使うことで文章だけの時よりもどのような効果が増えているかに気づき、まとめられている児童を B 評価とする。 <p>〈「努力を要する状況 (C)」への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料があることで本文の内容がどのように分かるようになったかをまとめさせる。 	
<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の学習の振り返り</p>	<p>○本時の学習の取り組み方に対する振り返りを書かせる。</p> <p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章と資料が対応させられると効果的であることが分かった。 ・自分の意見文を書くときにも効果的な資料を使って伝えられるようにしたい。 ・数字を使った意見文を書くときには、本文の内容を分かりやすくするために効果的な資料を使っていきたい。 	<p>2</p>

9. 板書計画
第4時（本時）

神無月 六日

固有種が教えてくれること
今泉忠明

資料2

資料3

資料4

資料5

資料6

資料7

ふ

ま

筆者が使う資料には、
伝えたいことを分かりやすく
示し、説得力をもたせる
効果がある。

筆者が使う資料には、
伝えたいことを分かりやすく
示し、説得力をもたせる
効果がある。